児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日： 2022 年 1月 27日　　　　事業所名：フューチャー芦屋

区分		チェック項目	現状評価（実施状況・工夫点等）	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1	利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	活動内容やその日の子どもの状態に合わせ、分けて使用できるように、十分確保している。	休憩室、勉強・遊びと分けていて確保できて	コロナ対策で密にならないように十分気を付ける。
	2	職員の適切な配置	活動に合わせ、人員を増員している。	どちらとも言えない。	子どもの特性も考慮しながら人員を増やす。
	3	本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	床をバリアフリーにし怪我が無いようにしている。 地下にあるため、エレベーターを利用している	エレベーターがあるので、過ごしやすい。	一人一人に合ったスペースを考え怪我・事故の 無いように注意を払う。
	4	清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	毎日掃除・消毒をしている。	いつも片付けられている。消毒も玄関・車内と設 置されている。	清潔を保ち、感染症など広がらないように気を 付ける。
業務改善	1	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）への職員の積極的な参画	業務内容や支援の見直し等話し合える場を設け ている。	／	情報を共有し、討議・振り返りを行う。
	2	第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	コロナの影響で実地できていない。	／	大阪の事業所と取り組み、対応を交換しあいより良い支援ができるようにする。
	3	職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	コロナの影響もあり外部研修はあまり参加できて いない。	／	専門的な研修に参加する機会を設ける。
適切な支援の提供	1	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	本人、保護者のニーズを聞き、日々の様子をみて、支援者で意見を出し合い、支援計画を作成している。	コロナの影響があり、電話や、ラインでのやりとり で、要望を伝えることが多かった。	適切にアセスメントを行い、ニーズに合った計画を 作成する。
	2	子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	特性や発達状況にあわせて、計画を作成している。	コロナの影響があり、電話や、ラインでのやりとり で、要望を伝えることが多かった。	保護者だけでなく、学校、関係機関からも聞き取り偏った計画にならないように作成する。
	3	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	具体的に記載するように心がけている。	わかりづらい箇所もある。	わかりやすいように、具体的な支援方法を記載 する。
適切な支援の提供t（続き）	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	できる限り計画に沿った支援を心掛けている。 その日の状況で、計画通りにいかないこともある。	子どもの状況に合わせてくれている。	状況に合わせ、無理なく、取り組みが継続できることを心掛ける。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	職員で相談して決定している。	／	職員で相談して決定していく。
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	コロナの影響で外出が難しくなったが、近くの公園に出かけたり、工作や、簡単なおやつ作りに取り組むようにした。	土曜日・長期休みなど、いろいろ工夫されている。	コロナ感染対策をしっかりして、課外活動などいろいろな体験をさせたい。
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	固定しないように、気を付けている。	土曜日・長期休みなど、いろいろ工夫されている。	毎月のお知らせで、予定を伝えているので、続けて行う。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	毎日送迎の確認・注意事項・連絡を実地している。	／	欠席・追加・時間変更の確認を徹底する。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	SNS・書類作成で情報を共有している。	／	見落としが無いように、確認済の連絡をする。
	10	日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	毎日、業務日誌・連絡ノートの記録を職員全員が目を通している。	／	従来通り実地する。
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	6か月ごとのモニタリング、計画の見直しをしている。	／	必要に応じて、見直し・作成をする。
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へり参画	児童発達支援管理責任者が参画している。	／	児童発達支援管理責任者が参画する。
	2	**（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）** 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	／	／	／
	3	**（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）** 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	／	／	／
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校（小学部）等との間での支援内容等の十分な情報共有	保育所・幼稚園での様子や対応を先生に伺い、 事業所での様子を伝えるようにしている。	／	関係機関と情報を共有するようにする。
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供	要望に応じて、卒業後の就労事業所・相談支援員・保護者と会議をし、本人の様子や、状況を話し合っている。	／	関係機関と情報を共有するようにする。
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	研修の参加や、専門機関との連携をとっている。	／	研修会の参加
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	土曜イベントで、障がいのない子どもと関りを持つ場を設けている。		コロナの影響もあり、場を設けるのが、 困難だった。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	コロナの影響のため、実地できていない。		コロナの影響もあり、場を設けるのが、 困難だった。
保護者への説明責・連携支援	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	契約時に説明している。	わからないこともあり、その都度聞いてい	契約時に丁寧に説明するように心がける。
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	コロナの影響で、送迎時や、電話での説明になった。	わからないこともあり、その都度聞いてい	丁寧な説明をする。
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	必要な保護者には、対応や、改善の助言をしている。	相談・要望など聞いてもらっている。	引き続き行う。
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	連絡帳に記載し、送迎時や、ライン等で日々の様子を伝えている。	出来事など、詳細に連絡帳やラインで知らせている。	日々の様子を共有する。
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	送迎時に自宅や学校での様子を聞いている。	相談・要望など聞いてもらっている。	引き続き行う。
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	保護者会の開催はしていない。		意見の交換会など取り組んでいきたい。
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	契約時に苦情相談窓口の明記、説明を行っている。発生した場合は迅速に対応するように努めている。	契約時に説明を受けた。	苦情が発生した時に迅速に行動できるよう普段から、意識を持つ。
	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	個々に対応を変えている。わかりやすいように配慮している。	配慮してくれている。	今後も配慮していきたい。
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	毎月イベントのお知らせなど配布している。 写真などラインをつうじて提供している。	楽しんでいる様子の写真など送ってもらっている。	定着していく。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	同意書を作成の上、得た情報は鍵付き書庫に 保管している。	契約時に説明を受けている。	個人情報の取り扱いには、引き続き注意し流出しないように、管理を徹底する。
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	マニュアルを作成している。	よくわからない。	職員間、保護者の周知をする。
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	定期的な避難訓練・防災センターなどへ出かけている。	よくわからない。	今後も定期的に実施する。
	3	虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	虐待防止研修に参加することや、職員間で話し合い・確認をしながら業務にあたっている。	／	研修会の参加・職員間での確認を行い、子どもたちにとって過ごしやすい環境づくりを常に心がける。
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	身体拘束はありません。	／	身体拘束は行わない。
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	事前にアレルギーの確認をしている。	／	事前確認を徹底し、常に注意をする。
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	わすれものや、けがの際にも必ず作成し、他の職員にも回覧し、個々で気を付けるように、促している。	／	どんな些細なことでも職員間で共有し、安心・安全な施設を心掛ける。